

森林と景観回復を通じた NDC 実施の加速のためのアフリカにおける REDD+への資金供給（11月16日 アフリカ・パビリオン）

JICA はケニア環境森林省、国連開発計画（UNDP）、アフリカ連合開発庁（AUDA-NEPAD）と共同で、COP27 アフリカ・パビリオンにおいてサイドイベントを開催した。

ケニア環境森林省森林保全局長のアルフレッド・ギチュー氏が、ケニア環境森林省事務次官のフェスタス・K・ングエノ氏の代理として、開会挨拶を行い、REDD+における政策措置の進展と技術的進歩、及び実施を可能にする新しい金融手法について情報交換することが、このサイドイベントの目的であると説明した。続いて、AUDA-NEPAD のプログラム革新・計画担当ディレクターであるエセリン・フォタボング氏が基調講演を行い、AFR100 のような共同作業が生物多様性保全を含めた生態系の回復やアフリカ全体の生計向上につながることを指摘した。続いて、ケニアの REDD+のナショナルフォーカルポイントであるアルフレッド・ギチュー氏が、JICA を含む様々な開発パートナーの支援によるケニアの REDD+準備の概要について説明し、ケニア森林公社のピーター・ンデュアティ氏が、JICA の支援により確立された森林参照レベル（FRL）や国家森林モニタリングシステム（NFMS）など、ケニアの REDD+準備の進捗状況と今後の改善予定について説明した。

続いて、モデレーターのイヴォンヌ・ニョカビ氏（UNDP）の司会により、パネルディスカッションが行われた。ナイジェリア環境省 AFR フォーカルポイントのルース・オガレ氏、モザンビーク国土環境省森林局のジョアキム・マクアクア氏が、それぞれの国における REDD+の技術的、政策的進捗の現状とコミュニティの関わり方について述べ、さらに国連開発計画（UNDP）のエブリン・コエチ氏、ケニア国家環境信託基金（NETFUND）のサムソン・トニオク CEO、グローバル・エバーグリーン・アライアンスのカレン・フォセット氏、1MTN のアネテ・ガローザ創設者も加わり、土地と森の再生のための新たな革新的な金融について情報交換が行われた。イベントの最後に、JICA、ケニア環境森林省、ケニア森林公社、及びケニア森林研究所（KEFRI）による技術協力プロジェクト「持続的森林管理・景観回復による森林セクター強化及びコミュニティの気候変動レジリエンスプロジェクト」の森林政策・普及専門家の井上

泰子氏から、アフリカにおける森林景観回復に大きな変化をもたらす協力関係の継続的発展と NFMS も含めた強固な技術的・政策的基盤強化に貢献する JICA プロジェクトが紹介され、感謝の言葉と共に本イベントは終了した。



登壇者者集合写



会場の様子



ケニア環境森林省森林保全局長のアルフレッド・ギチュー氏による挨拶



ケニア森林公社のピーター・ンデュアティ氏による発表



井上泰子専門家による発表